



第366号
発行所
文通村事務局
編集 広報部
千葉県成田市

過ぎて知る 今の重み

ここに ある今

雪が降り出すと思い出す母の言葉。

「雪が降って嬉しいのは子どものうちだけだよ」
それほど雪の降る地域ではなかったため、雪が降る時にはしゃいでいた子どもの頃に母が言っていたことは、大人になると母の言う通りになり、雪が積もれば車では移動しにくくなるし、雪かきもしなければならぬので、雪が降り出すと気になるのは積もってしまわないかということ。

今にして思えば、雪が降って素直に喜んでいたあの感情は、あの時期にしか感じられない貴重なものだったように思います。

「今」しか感じられないもの。そういうものはいつも「今」はそう感じられるものではないような気がします。

「パパ、ママ遊んで」
疲れて休みたい時に幼い我が子にせがまれるのは大変なのですが、そんな風に長く一緒に過ご



せるのもある程度の年になるまで。子どもと接する時間が減ってくると、そんな頃が懐かしく、また寂しく感じるのかもしれない。

あるいはいつも口うるさく注意してくる両親も、いざれ自分のこともわからなくなつて、今までのような「いつもの」会話ができなくなつてしまふ日が来たら、あの口うるささも愛情だったんだと

三寒四温という言葉に触れるたび、心の中にも似たような揺らぎがあることを思う。晴れやかに過ごせる日もあれば、理由もなく沈んでしまう日もある。まるで季節が、行きつ戻りつを繰り返しながら春へと向かうように、人の心もまた、波を描くように揺れながら進んでいく。

三寒四温

今日できたことが、明日はうまくいかず、自信を失ったり取り戻したりを繰り返す。けれども、気まぐれな気温に戸惑いながらも、確かに季節は移ろい、私たちは前へと歩いている。感情の浮き沈み

も、弱さや不安も、きつとその人なりの歩みの一部なのだ。ふとした一言に救われたり、小さな出来事に心がほじけたり、ほんのわずかな光が、心をあたためることもある。そんな心の変化を否定せず、受け入れていくこともまた、自分を丁寧に生きるといふことなのだろう。

風に揺られて誰かに届け 風船便

風船便はいつでも誰でも参加できますが、その受取は新規の方へ優先されます。送り方は簡単♪下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。事務信同の筒さで流し宛封下まで交り局用封今いま



次回発送日

4月の次回発送日は14日、28日の予定です。送りたいお手紙がある場合はそれぞれ11日、25日までに事務局に到着することを近隣の郵便局で確認の上、ポストに投函して下さい。

感想・体験談

皆さんのお声をウェブ上で掲載させて頂き、方法は事務局宛てのメモや便せん、何でも有り難いです。頂いたメッセージは個人情報伏せした上でご紹介させて頂きます。ご要望等もお気軽にお送りください。

